

オアシス40号

オアシス第40号
〒379-0116
群馬県安中市安中
3-25-13
Tel 027(382)3131
fax027(382)6568
制作
広報委員会



当院ご利用の皆様へ
院長 須藤 英仁



今回の増床に伴い増築された認知症専門棟(3F部分)

今年の厳しかった冬もようやく去り、春めいてまいりました。医療法人済恵会でも新年度を迎え、老人保健施設めぐみの増床を始めとする事業計画が実施されています。

めぐみの運営に関してはこれまで、法人内でも議論されてきました。つまり、利用者の皆さんに本当に喜んで頂いているのだろうかという事です。現状では、利用されている方の介護度の差が大きい為、なかなか楽しんでいただけの行事が、難しいという点もあります。なか体操やゲームなど、考えられることを試行錯誤していると、今回のめぐみの改装で

は介護度によって2階・3階を分け、レベルに合わせた介護を行えるように考えている所であり、しかしながら、基本となるところは、働く職員の感性と介護に対する熱意だと思えます。

つい先日、トイレのウォシュレットのお湯が冷たいとの指摘をいただきました。これなどはもともと早く、職員が気づいていなければならぬ問題だと思いますし、利用者の方が、ただ座って居るだけであれば退屈そうだと感じ、何かを工夫することも大事なことであります。

時間がない、忙しいはどこの世界も同じこと、マンネリ化しないようにしっかりと指導していきまので利用者の方、家族の方も気が付かれたことはなんなりとご指摘下さいますようお願いいたします。ただし良かったと思われました時には、どうぞ褒めてあげてください。介護職員の生きがいはここにありません。お互いが少しでも理解し合えて楽しく過ご

せる様な「めぐみ」にしていきたいと思っております。

病棟の看護の問題も同様なことがあります。病棟では全入院患者様にアンケートをお願いしておりますが、幾つかのご指摘を頂いております。その中で目立つものとして、ナースコールの対応が遅いというものがあります。

この原因として病棟が2、3階に分かれていることなどがありますが、もっとも大きな問題はやはり看護師個人の気付き、能力などの差が大きいよ

うに思えます。解決の方法に近道はありませんが、病院全体で慣れない職員をしっかりと教育すること、患者様の声を当事者たちにして、声の当り直すべきことを自覚させること。みんなが改善の努力をし、みんなで見守り注意しあうこと。院長をはじめ管理職も決して低きにながれないよう研鑽をかさねること、一歩でも早く行動に移すこと、など今後も努力を重ねてまいります。

季刊誌オアシスも今回で40号となります。新

駐車場案内



認知症専門棟完成

～老人保健施設“めぐみ”が目指す介護～



図1：完成した認知症専門棟内部。食堂からデイルームまで見渡した様子。

運営方針

平成17年4月より介護老人保健施設めぐみに認知症専門棟が増床となります。

認知症専門棟とは、日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思の疎通の困難さがときどき見られ介護を必要とされる利用者が、ショートステイや入所サービスを利用することができる施設です。

認知症専門棟の方針は、できる限り個々の利用者に合ったケアを提供し、快適に生活ができるように運営していきたいと思っております。

具体的な内容

①入浴

夕食前に入浴していただき、気持ちよく夕食を食べていただきます。

②排泄

時間で決めるのではなく、個々の利用者に合った排泄介助やトイレ誘導を行っていきます。

③食事

適時適温にて対応させて頂き、個々の利用者の状態に応じた食事を提供していきます。

④レクリエーション

月に1回は外出レクリエーションを考えております（お花見・散歩・ドライブ・紅葉見学など）

新施設の概況

①食堂・デイルーム

（図1）
今まではエレベーターでの移動を余儀無くされていましたが、3階に食堂やデイルームがあるため、移動もスムーズになります。

②特殊浴槽

（図2）
一回ごとにお湯を新しいお湯に取り換え、衛生的で気持ちよく入浴して頂きます。

③シャワー付トイレ

（図3）
排泄などで汚れた際でもすぐにシャワーで体をきれいに洗う事ができ清潔を保つことが出来ます。

今後の目標

私達職員が今後めざしていく看護・介護は、ただサービスを提供するのではなく利用者の気持ちでいく看護・介護は、ただサービスを提供するのではなく自分自身に置き換えてサービスを提供させていきたい。サービスマンのマンネリ化を防ぐために、常に様々な工夫や改善を行っ

ていくように努力していきたいと思っております。これからも介護老人保健施設めぐみは、利用者や家族の方に喜ばれるような施設にしていきたいと職員一同思っております。まためぐみに対してのお気づきの点やご指摘がございましたら職員まで声を掛けて下さい。よろしくお願い致します。



図2：特殊浴槽。南側に窓があり明るい陽射しが暖かさを感じさせます。



図3：シャワールーム併設トイレ。緑色の場所がシャワールームになっています

病棟紹介

一般病棟編

今年度の業務目標

梅の花が咲き、桜のつぼみもほころぶ季節となりました。当院におきまして、新たに看護師1名、准看護師4名の合格者が加わることに、看護部として、とても喜ばしく思っております。

さて、現在医療業界も変革の時を向かえています。当院では患者様を選ばれる病院を目指すべく、昨年より『病院理念』『看護理念』を新たに掲げ、患者様に満足して頂けるよう、様々な業務改善に取り組んで参りました。

看護部としても、看護が担う役割の大きさを自覚し、看護の質の向上を目指して、徐々にではありますが、前進しつつあると思っております。

業務改善の具体策

では具体的に看護部では、この一年の間に何を改善して

きたかと申しますと、リーダーを中心とした看護体制の確立、看護カンファレンスの実施、看護業務を見直し、月二回の勉強会も始めました。これらの改善の成果はどうか？という点では、まだまだであると思えます。しかし、とにかく一度始めた事、良いと思える事を継続し、結果につなげていきたいと思っております。

アンケート結果 が与えるもの

ところで、当院では入院患者様に、退院時アンケート用紙と封筒をお渡しし、退院後に郵送をお願いしております。先日、送られてきたアンケート結果に看護部として真摯に受け止めていかなければ、ならない事が書いてありました。その内容としては「看護師さんは感じのいい人、悪い人がいる。」「理念は立派だが、理想と現実の違いを、管理者はどう考えているのか。」といったまさに痛いところを付く厳しい意見でありました。

この他にも、ナースコールの受け方、コールから看護師が訪室するまでの時間の長さ等、改善が必要な事が多いのが現実です。

人の理解度の確認をして、理想と現実のギャップを埋めていこうと思えます。それから、今現在病棟で常に問題となっている事はナースコールへの対応です。2・3階に分かれている構造上、ナースコールは2階ナースセンターでしか対応できず、2階受持ちの看護師が、3階受持ちの看護師に連絡するか、コールを受けた者、自らが対応にいくことになり、このため、どうしても時間が掛かってしまうことがあります。ここで、なぜコールを受けたい者がすぐに対応できないのか、と思われ、受けたい者が、他の患者様の対応の手を止めてコールを受けているのです。

まとめとつづ



しかしながら、どんな理由があるにせよ、患者様をお待たせするという事では、よい看護をしているとは言えません。この問題を優先して行動、看護師には何を優先して行動していくかの判断力の向上、スタッフ間の協力体制の強化、更には、スタッフ間の連絡手段の検討を行っていきます。最後に、本年度より、新人看護師に対する教育プログラムを作成し、三月より実施しております。初めが肝心といえます。初期教育を自分のものとし、看護師として成長して欲しいと思います。又、患者様には、これからもいろいろご指摘していただき、それを改善していく事で、よりよい看護につながると思っています。今後も、素直なご意見をお願い致します。